

日本語教育 e-learning 展示会

○主催

一般財団法人日本語教育振興協会

(研修委員会、平成26年度日本語学校教育研究大会委員会)

日本語デジタル教育推進協議会

1. 日時

平成26年8月6日(水) 9:30~16:00

2. 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

3. 趣旨

日本語教育機関の教職員の教員能力の育成と伸張を目的として実施する。

本研修は、e-learning の教学の活用について学ぶことを目的とする。

4. プログラム

9:30 開場

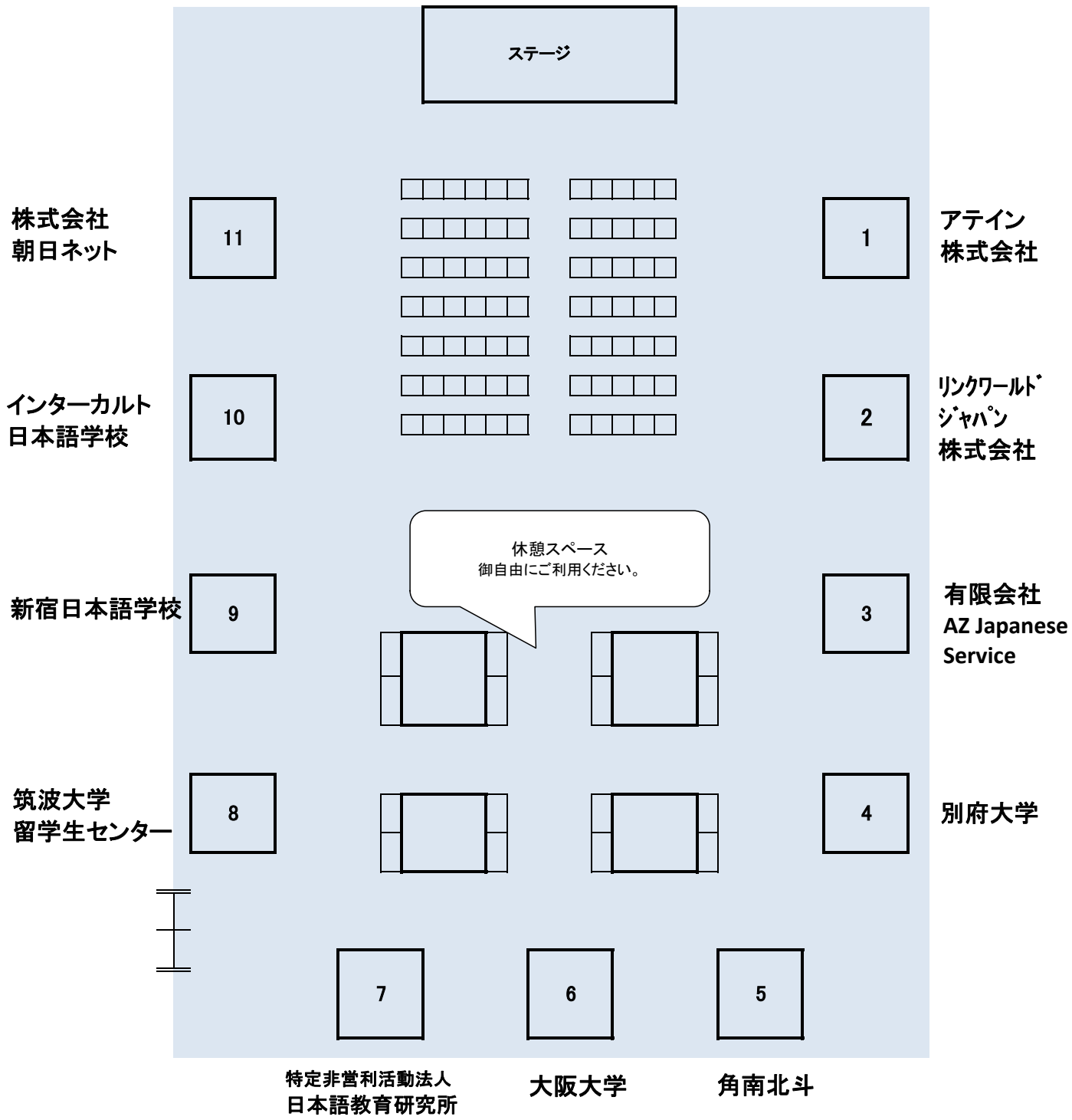
10:00 各出展者によるプレゼンテーション

10:00-10:25	金秀麗 (アテイン株式会社)	日本語教育実力養成コースの e ラーニング映像教材
10:30-10:55	窪田一郎 (リンクワールド ジャパン(株))	リンクワールドジャパンのオンライン授業
11:00-11:25	倉持素子 (有限会社 AZ Japanese Service)	総合ビジネス日本語オンライン講座
11:30-11:55	篠崎大司 (別府大学)	JLPT-N1 合格のための e ラーニング学習システム
12:00-12:55	角南北斗	e-Learning の第一歩は「スマホで語彙リスト」で
	難波康治 (大阪大学)	本「日本語学習への IT 導入ガイド」の紹介
13:00-13:25	藤本かおる (特定非営利活動 法人日本語教育研究所)	電子黒板を使用した初級日本語の映像教材
13:30-13:55	李在鎬 (筑波大学留学生セン ター)	留学生に向けた日本語教材コンテンツ
14:00-14:25	江副隆秀 (新宿日本語学校)	新宿日本語学校と NTT コミュニケーションズで開発し た VLJ
14:30-14:55	加藤早苗 (インターカルト日 本語学校)	e-learning システム「スーパー日本語」
15:00-15:25	村島さや香 (株式会社 朝日 ネット)	クラウド型教育支援システム「manaba」

15:25 プレゼンテーション終了

16:00 展示終了

会場レイアウト



出展者・出展内容リスト

No. 1～7 日本語デジタル教育推進協議会

1. 日本語教育実力養成コースのeラーニング映像教材

金秀麗(アテイン株式会社)

日本語教育実力養成コースのeラーニング映像教材(DVD30枚分)です。ナレーションに対応した英語、中国語、ミャンマー語字幕が付くので、リスニングレベルが低くても学習することができます。また、事前学習&副読本PDFが付属するので、予習復習に役立てることができます。さらにLMS(学習管理システム)でご利用の場合は確認テスト問題もご提供します。この教材で学習すると、既に日本語をある程度話せる方は、更に深く日本語を理解できるようになります。日本語教師の方であれば、更に正しい日本語を学習者に教えることができるようになります。現在、日本語学習初心者向け教材も制作中です。

2. リンクワールドジャパンのオンライン授業

窪田一郎(リンクワールドジャパン(株))

インド デリー及びインドネシア バンドンの日本語学校の教室に集まった学生に対し、日本から試験的なオンライン授業を行い、授業形態、ネットワーク環境、機材、教材の点から検証を進めた。

日本にいる教師と教室は1対1で接続すべき事、新興国においてもデリーやバンドンのような都市においては、十分オンライン授業が行えるネットワーク環境にある事、音声の双方向の環境を、費用や運用の負担を少なく構築する事が必要である事、教室での日本語教師のサポートは有効であること、などが明らかになった。さらに実際の商用サービスとして、オンラインでマス授業を提供するとした際に注意すべき課題について、考察した。

3. 総合ビジネス日本語オンライン講座

倉持素子(有限会社AZ Japanese Service)

米国発の talent という多様なボリュームに対応可能な LMS を使い、「総合ビジネス日本語オンライン講座」開発。N4 程度の学習者でも取り組める平易な日本語での講義を特徴とし、N3 以降の漢字には読みがなをつけた。全 10 章は、日本の商習慣や人間関係を土台に据えながら「依頼する」「謝る」「誘いを受ける／断る」などの行為別に構成。9、10 章では基本的な文書の書き方も学べるようになっている。聴講後の練習問題は、選択式、聞き取り、かたかなのタイピング練習と、バリエーション豊かに用意した。また各章は「ビジネス日本語」に加え、「ビジネスマナー」も含んでおり、日本企業で働く際、好感をもたれる振る舞いができるように配慮した。

4. 日本語能力試験N1合格のためのeラーニング学習システム

篠崎大司(別府大学)

日本語能力試験N1合格のためのeラーニング学習システム(聴解・文法)と、通信制日本語教育能力検定試験対策講座をご案内します。eラーニング学習システムは文法・聴解各約1000問の問題数と各26本の解説動画からなります。授業でご利用いただくことで、教師の授業負担の軽減と均質かつ徹底した学習環境をご提供いたします。付属テキストとの併用で自律的学習・学習効果の向上も見込めます。検定試験対策講座は、週3回メールマガジンと講義資料(PDF)をお届けします。講義資料はPowerPointスライド2600枚分と充実した内容、さらに講義資料に沿った模擬問題付きです。いつから始めても1年間のご購読で検定試験全出題範囲を学習できます。

5. e-Learningの第一歩は「スマホで語彙リスト」で

角南北斗(フリーランス)

サイト制作パッケージ「スマホで語彙リスト」は、お使いの紙の語彙リストのスマホ版を制作するサービスです。このスマホ版の語彙リストによって、読みや訳語、あるいは課などのカテゴリーから語彙を簡単に検索できるだけでなく、単語の暗記に役立つクイズ形式の表示や、利用履歴の一時保存も可能になります。スマホなので学習者は常に携帯でき、授業外の隙間時間でも学びやすくなるでしょう。制作には語彙リストのExcelファイルがあればOKですので、IT教材に不慣れな方や開発経験がない方も安心して取り組んでいただけます。詳しくは紹介サイト(learning-reference.com)をご覧ください。

6. 日本語教師が「手軽に・楽しく・効果的に」IT技術を導入・活用するための本『日本語学習へのIT導入ガイド(出版予定)』の紹介

難波康治(大阪大学)

昨今、MOOCsをはじめとして、ネットを利用した教育がマスコミ等でも盛んに取り上げられるようになり、スマートフォンやタブレットなどのデジタルデバイスも私たちの生活の中に浸透してきています。ネット上では、多くのコンテンツや教育支援のためのサービスが提供されています。それらの中には魅力的なものも少なくありません。しかし、実際に日本語教育の現場において、授業あるいは教育カリキュラムの中でこれらのリソースを有効に使うためには、まず、何のために利用するのかを考えることが重要です。変化の速いこれらのサービスの本質を理解して利用することで、外面や手続きにまどわされず、「手軽に・楽しく・効果的に」教育に導入することができることを目標に、その具体的な方策をしめす入門書としてこの書籍を企画しました。

7. 電子黒板を使用した初級日本語の映像教材

藤本かおる（特定非営利活動法人日本語教育研究所）

大手学習塾と協力し、電子黒板を使用した初級日本語（N5レベル）の映像教材を開発した。通常の授業は、決まった時間に一度しか行われませんが、映像教材は繰り返し見ることができるため、学習者は自分のペースに合わせて学習を進めることができる。また、本教材では導入や練習が映像を通して行われるため、経験の浅い教師でも一定のレベルの授業を提供できるだけでなく、非母語話者教師のみが指導する現場では母語話者の自然な発話に触れる機会を作る補助教材としての使用も可能である。この映像教材は、現在インドの大学で第二外国語として学生に使用されている。本セッションでは、教師が不足している地域においての授業デザイン例を紹介する。

8. 留学生に向けた日本語教材コンテンツ

李在鎬（筑波大学留学生センター）

筑波大学留学生センターは平成22年度に文部科学大臣による「日本語・日本事情遠隔教育拠点（<http://www.intersec.tsukuba.ac.jp/~kyoten/>）」の認定を受けた。この認定に基づき、日本語教材コンテンツを制作している（<http://e-nihongo.tsukuba.ac.jp>で公開中）。教材は高等教育機関に所属する留学生を主たるユーザとして想定しており、プロジェクトが終了する平成27年3月までに初級すべてをカバーする教材を開発する予定である。日本語教材としての基本コンセプトは1)完全自立コース型の教材にする。2)文型や語彙の積み上げ方式にする。3)真正性を重視する。4)マルチメディアとバーチャルな仕掛けを積極的に導入する。5)アカデミック・ジャパニーズとしての日本語教材にする。6)直接法のコンテンツにする。

No.9～10 日本語教育機関

9. 新宿日本語学校とNTTコミュニケーションズで開発したVLJ（※1）

江副隆秀（新宿日本語学校）

新宿日本語学校では、『新実用日本語』という独自の教科書を使用している。その教科書の文法骨格は江副文法と呼ばれる独特な可視化された文法である。

NTTコミュニケーションズが新たな日本語教育コンテンツを探している時に、当校の可視化された日本語文法と出会い、デジタル画面で親和性が高いということで採用され、2012年から共同開発を開始し、現在に至っている。クラスへの導入は2013年からである。

全体は、ブレンド型授業で、①クラスで教師用ソフト、②家で行う学生用LMS（※2）③スマホ等で行う、「単語帳アプリ」と「文法アプリ」という三つの分類、四つのコンテンツからでき上がっている。

（※1）Visual Learning Japanese の略 （※2）Learning Management System

10. e-Learning システム「スーパー日本語」

加藤早苗（インターカルト日本語学校）

クラウド型 e-learning「スーパー日本語」は、あらゆる日本語教育に関わる教材データベースを1つのシステムにまとめた、いつでもどこからでも学習できる e-learning サービスです。教材は、37年に及ぶ日本語教育の経験をもつインターカルト日本語学校の講師陣が独自開発、JLPT や BJT などの試験対策から、企業別のオリジナル教材、大学における Academic Japanese、さらには日本語教師養成講座まで、様々なコースワークから成り立っています。PC はもちろんスマホ、タブレットにも対応しており、クラウド環境から組織ごとにグループ設定した受講者をポートフォリオ機能で管理することができます。

No.11

11. クラウド型教育支援システム「manaba」

村島さや香（株式会社 朝日ネット）

manaba はクラウド型教育支援システムです。シンプルなインターフェースと、必要最低限の機能を搭載し、どなたでもストレスなくご利用頂けるよう設計しています。現在 220 以上の教育機関にて、授業支援をはじめ、大学キャリア支援、留学など、さまざまなお取り組みにてご活用いただいております。

小テスト・レポート機能などの授業の事前・事後の学びを支援します。また、プロジェクト学習やレポートの相互評価、出席・リアルタイムアンケート（オプション）など授業で使って頂ける各種機能にて、授業「中」の学びをも最大限に支援します。さらに、manaba の中で行われた学習の成果は、ポートフォリオに蓄積し、振り返りや学習指導に活用することができます。